

# 決算報告 2013年度



2014年5月の理事会で、2013年度の決算が承認されました。みなさんに納めていただいた学費、国や地方公共団体から交付されたお金などがどのように使われたのかお知らせいたします。

2014年9月発行

発行：学校法人 大阪経済大学 財務部経理課 〒533-8533 大阪市東淀川区大隅2-2-8

## 2013年度の主な取り組み

- 創立80周年記念キャンパス総合整備事業の第4期にあたる教室棟のD館が、大学のシンボルとなる建物として、2013年9月に完成しました。新しいD館は、床面積12,000㎡超、地上45mと本学でも大きさ・高さとも抜きん出たサイズの校舎となりました。高層棟西側の2階部分に広がる広場とそこへ続く大階段は、キャンパスの中心であり、校地間接続デッキの結節点となっていることもあり、「つながる力」を象徴的に表現した意匠となっています。
- 旧D館の跡地には、約1,000台程度を収容できる駐輪場を新たに整備しました。この駐輪場は、キャンパス景観に配慮し、キャンパス内への自転車侵入を防止することも意図している他、駐輪場の半分は2階部分を持ち、学生テラスとして開放することを計画しています。
- 大隅キャンパスと並行して、2013年度に摂津キャンパスの整備に着手し、2014年3月に南校地の人工芝更新工事とクラブハウス新築工事が完了しました。新築されたクラブハウスは、これまで分散していた各クラブの部室を集約し、トレーニングルーム等も設けたことで、各クラブの活動拠点となる他、屋上には、弓道場を新設しました。
- 2013年秋学期から、学内にセブン-イレブンおよびICカフェをオープンしました。昼食時には学生や教職員でにぎわいを見せる他、セブン-イレブンの店内では、本学のグッズも販売しています。

## 学校法人会計の仕組み

私立学校の会計は、文部科学省の「学校法人会計基準」という統一基準にしたがって処理されます。「真实性」「複式簿記」「明瞭性」「継続性」「総額表示」の5原則があります。その仕組みは企業会計と異なるところもあり、学校法人会計では、①資金収支計算書、②消費収支計算書、③貸借対照表という3つの財務諸表が重要とされています。

- ① 資金収支計算書……学校法人の「家計簿」といえるもので、1年間の資金の流入・流出を記録しています。学校法人の全活動の状況を表したものです。
- ② 消費収支計算書……民間企業の「損益計算書」に相当するものです。収入と支出の均衡状態を明らかにします。
- ③ 貸借対照表……年度末の財産の状況を記録したものです。民間企業の貸借対照表と基本的に同じで、左に資産、右に負債、基本金(民間企業の「資本金」に相当)、消費収支差額(消費収支計算書の翌年度繰越収入(支出)超過額と一致)を配置しています。

## 資金収入の内訳

資金収入の合計額は162億2,039万円で、内訳は以下の通りです(図表1)。

- (1) 学生生徒等納付金収入(68億5,898万円)は、授業料などの収入です。昨年度の学生数(2013年5月1日現在)は、学部7,420名、大学院122名でした。
- (2) 手数料収入(4億72万円)は、大部分が入学検定料の収入です。入学志願者数は16,899人(編入・大学院を除く)で、前年度(16,451人)から448人増となりました。
- (3) 寄付金収入(3,333万円)は、「教育振興募金」によるものです。在学生の御父母、同窓生、企業などから寄付をいただきました。
- (4) 補助金収入(3億7,146万円)は、国・地方公共団体などからの補助金の収入です。
  - 私立大学等経常費補助金の額が、交付された全国563大学のなかで185位でした。
  - 科学研究費助成事業については、教員の研究課題が28件採択されました。

- (5) 資産運用収入(2億6,873万円)は、預金・債券の受取利息や奨学基金運用収入及び施設利用料収入によるものです。
- (6) 資産売却収入(5億円)は、有価証券の償還による収入です。
- (7) 事業収入(2,642万円)は、生涯学習講座などの講座開催による収入と、学生寮の家賃などの収入があります。
- (8) 雑収入(1億9,105万円)は、主に私立大学退職金財団からの交付金です。
- (9) 前受金収入(16億8,966万円)は、翌年度の新入生が入学手続きで納めた学費、在学生が納めた翌年度の学費などのことです。
- (10) その他の収入(18億6,260万円)は、貸付金回収などの収入とキャンパス整備の支払費用を引当特定資産から振り替えたものです。
- (11) 資金収入調整勘定(18億6,062万円)は、年度間の調整項目です。
- (12) 前年度繰越支払資金(58億7,802万円)は、2012年度から繰り越されたものです。

## 資金支出の内訳

資金支出の合計額は資金収入の合計額と同額で、内訳は以下の通りです(図表1)。

- (1) 人件費支出(40億3,825万円)は、教職員の給与・一時金などの合計額です。専任教員数は2013年5月1日時点で147名(前年同日比と同じ)です。
- (2) 教育研究経費支出(18億805万円)は、教育研究活動のために支出した経費です。
- (3) 管理経費支出(5億7,382万円)は、教育研究活動以外で支出した経費です。学生募集のための経費などもここに含まれます。
- (4) 施設関係支出(25億4,229万円)は、建物や建物に付属する設備に係る支出です。2013年9月に完成したD館の建設資金の他、摂津キャンパスクラブハウス新築費用などです。
- (5) 設備関係支出(4億7,696万円)は、教育研究用機器備品や図書などの購入費です。D館新築に伴う機器備品の購入、新型出席読取端末設置などを行いました。
- (6) 資産運用支出(6億3,093万円)は、引当特定資産への積立などです。
- (7) その他の支出(4億667万円)は、貸付金支払などです。
- (8) 資金支出調整勘定(1億671万円)は、年度間の調整項目です。
- (9) 次年度繰越支払資金(58億5,009万円)は、2014年度へ繰り越されるものです。

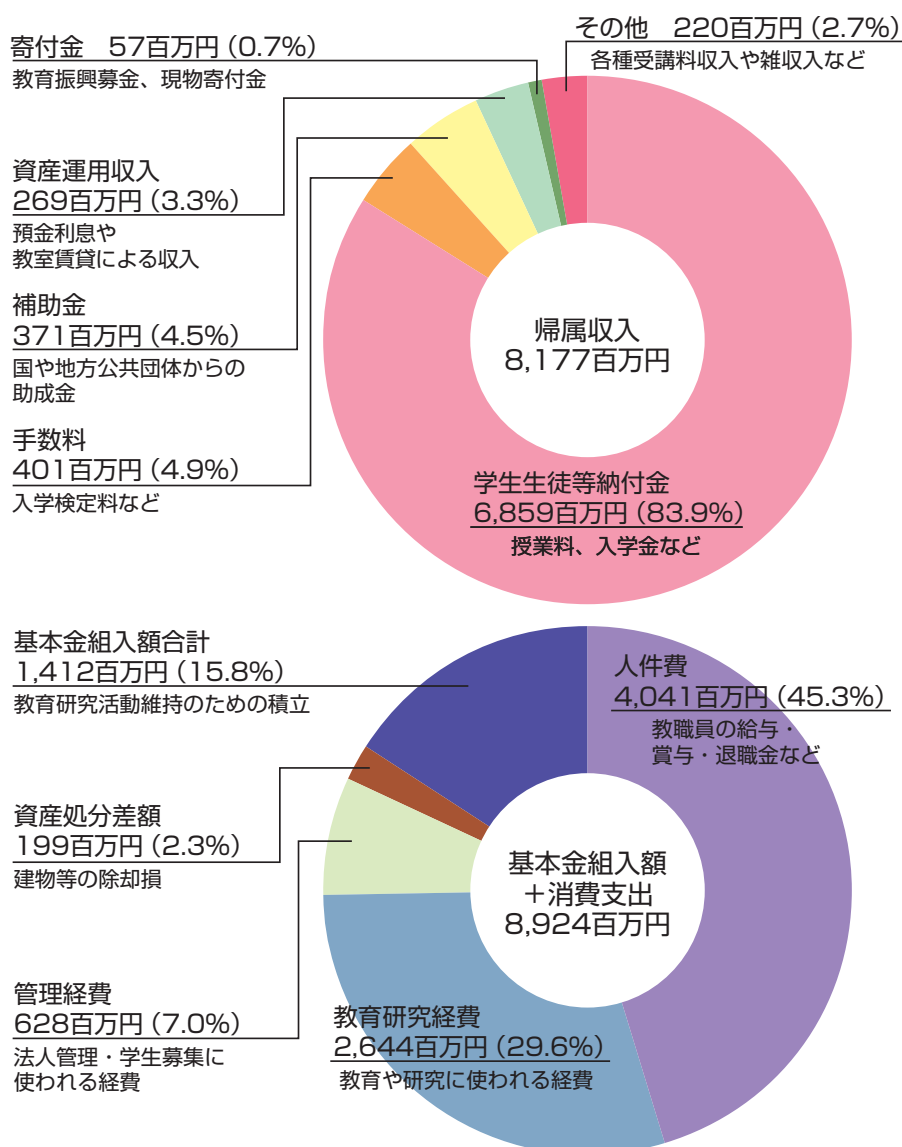
図表1 2013年度 資金収支決算内容 (単位は百万円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
(1) 学生生徒等納付金収入	6,859	(1) 人件費支出	4,038
(2) 手数料収入	401	(2) 教育研究経費支出	1,808
(3) 寄付金収入	33	(3) 管理経費支出	574
(4) 補助金収入	371	(4) 施設関係支出	2,542
(5) 資産運用収入	269	(5) 設備関係支出	477
(6) 資産売却収入	500	(6) 資産運用支出	631
(7) 事業収入	26	(7) その他の支出	407
(8) 雑収入	191	-	-
(9) 前受金収入	1,690	-	-
(10) その他の収入	1,863	-	-
(11) 資金収入調整勘定	△1,861	(8) 資金支出調整勘定	△107
(12) 前年度繰越支払資金	5,878	(9) 次年度繰越支払資金	5,850
収入の部合計	16,220	支出の部合計	16,220

■ 消費収支の内訳 (※図表2以外、一万円未満切り捨てて記載)

- 消費収支は、教育研究活動に帰属する収入と支出を表すものです(図表2)。
- 帰属収入は、すべての収入のうち負債とならない収入のことで、教育研究活動の成果として獲得した収入を表します。合計額は81億7,746万円でした。なお、学生生徒等納付金、手数料、補助金、資産運用収入などの内訳は資金収支とほぼ同じですので、説明は省略します。
  - 基本金は、固定資産の取得や基金の積立金などのことです。2013年度は、新図書館建設が完了したことに伴う取崩を行いました。一方で、本学のキャンパス拡充や整備事業等の資金として新たに17億円、奨学金の基金として1億93万円を組み入れ、結果的に組入額は14億1,281万円となりました。
  - 消費収入は、帰属収入から基本金組入額を引いた額で、67億6,464万円でした。
  - 消費支出は、教育研究活動のために支出する資産の消費額や対価を表します。合計額は75億1,134万円でした。資金支出と比べて、人件費では退職給与引当金繰入額、教育研究経費と管理経費では減価償却額が含まれます。資産処分差額は、キャンパス整備事業に伴う建物等の除却損を計上しました。
  - 当年度消費支出超過額は、消費収入から消費支出を引いた額で、7億4,669万円でした。これに前年度繰越消費支出超過額を加え、翌年度繰越消費支出超過額が21億2,389万円となりました。

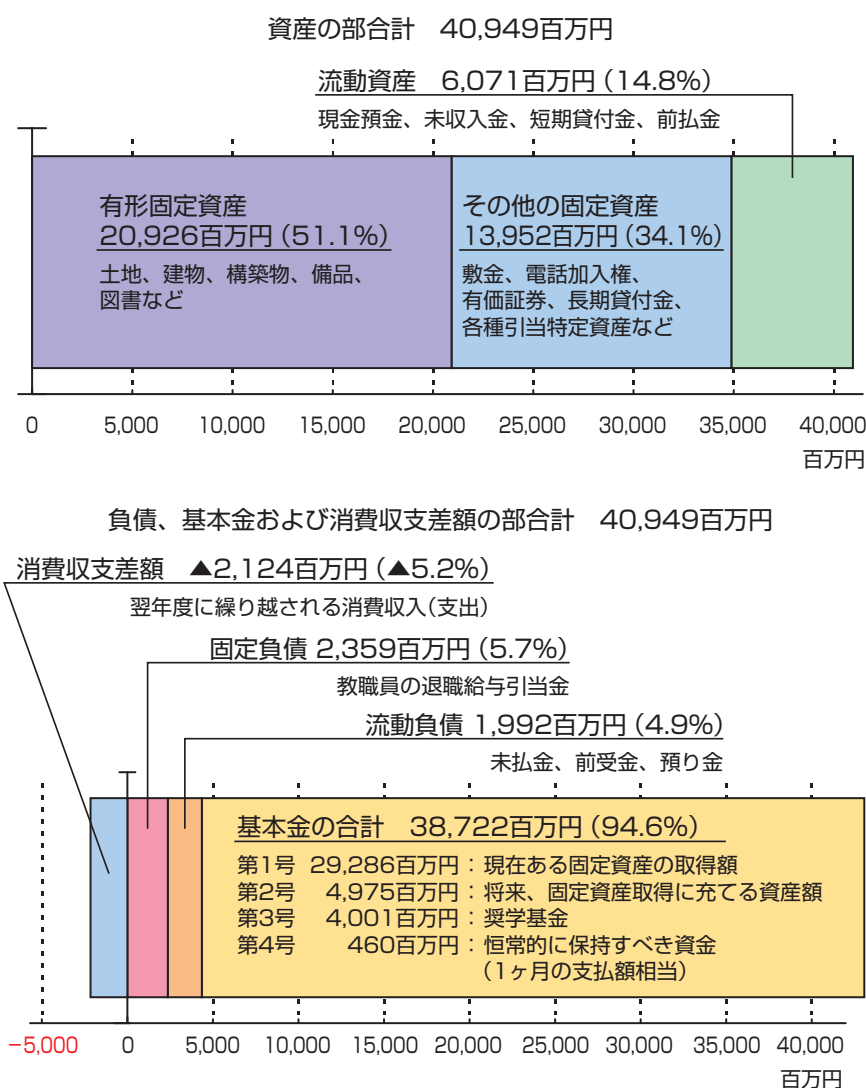
図表2 2013年度 消費収支決算内容



■ 貸借対照表の内訳 (※図表3以外、一万円未満切り捨てて記載)

- 貸借対照表は、2014年3月末現在のストックの状態を表します(図表3)。
- 資産の合計額は409億4,943万円。内訳は、①有形固定資産(土地・建物・備品・図書など)209億2,562万円、②その他の固定資産(施設設備拡充引当特定資産・退職給与引当特定資産など)139億5,230万円、③流動資産(現金預金など)60億7,150万円です。
  - 負債の合計額は43億5,121万円。内訳は、①固定負債(教職員の退職給与の積立金)23億5,924万円、②流動負債(未払金・前受金・預り金)19億9,197万円です。
  - 基本金の合計額は387億2,210万円。内訳は、①第1号基本金292億8,613万円、②第2号基本金49億7,502万円、③第3号基本金40億93万円、④第4号基本金4億6,000万円です。
  - 消費収支差額の合計額は▲21億2,389万円で、翌年度繰越消費支出超過額として2014年度に引き継がれます。

図表3 2013年度 貸借対照表決算内容



■ 主な財務比率など

本学の主な財務比率は次のとおりです(図表4)。

図表4 主な財務比率

項目	本学 H25	全国平均 H24	判定基準	本学の評価	摘要
人件費比率	49.4	52.8	▼	○	人件費の帰属収入に対する割合、50%以下が目標。
教育研究経費比率	32.3	31.2	△	○	教育研究経費の帰属収入に対する割合、30%以上が目標。
管理経費比率	7.7	9.2	▼	○	管理経費の帰属収入に対する割合、8%以下が目標。
帰属収支差額比率	8.1	4.8	△	○	帰属収支差額*の帰属収入に対する割合、10~20%が目標。
学生生徒等納付金比率	83.9	73.4	~	~	学生生徒等納付金の帰属収入に対する割合。
基本金組入率	17.3	11.7	△	○	帰属収入の中からどれだけ基本金に組入れたかを示す比率。

※帰属収支差額 = 帰属収入 - 消費支出  
 判定基準…△: 高い値が良い、▼: 低い値が良い、~: どちらともいえない  
 本学の評価…○: 全国平均より評価が高い、×: 全国平均より評価が低い、~: どちらともいえない  
 (注)全国平均H24は、日本私立学校振興・共済事業団の「平成25年度版今日の私学 財政大学・短期大学編」における財務比率表(医歯系法人を除く)から抜粋しています。

- 本学は長期・短期ともに借入はなく「自己資金による経営」を続けています。
  - 格付投資情報センター(R&I)による格付けでは、2013年9月20日に「A+」(シングルAプラス)、方向性は「安定的」という評価を得ています。
- 格付け符号… AAA~Dの9段階で評価。上位格に近いものに+(プラス)、下位格に近いものに-(マイナス)表示をつけることがある。  
 格付けの方向性…格上げの方向で見直す可能性が高いと判断する場合は「ポジティブ」、格下げの方向で見直す可能性が高いと判断する場合は「ネガティブ」、当面変更の可能性が低い場合には「安定的」。

■ ミッションステートメント(社会的使命)

大阪経済大学は、経済・経営系の伝統を基盤に、地域社会・企業社会・国際社会との交流をさらに進め、全学一丸となって、学生一人ひとりの主体性、自発性を引き出す教育研究プログラムとキャリアサポートシステムを提供します。そのことにより、市民としての良識とたくましい実践力を備えた、世の中で活躍し貢献する多彩な職業人を育てます。